

2019 年度事業報告書

I 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

この法人は、持続性可能な社会、すなわち低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

2001年2月14日

イ 基本財産

金 52,363,000 円

ウ 実施事業

- (ア) 環境意識の普及，啓発に関する事業
- (イ) 環境情報の発信事業
- (ウ) 環境保全に関する調査，研究に関する事業
- (エ) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (オ) 環境保全のための市民，事業者等との連携，支援に関する事業
- (カ) 環境意識の向上のための国際的な連携，支援に関する事業
- (キ) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (ク) その他，この法人の公益目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況（2020年3月31日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1 人 専務理事 1 人 理事 7 人 監事 2 人 評議員 11 人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
理事長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	田中ひづる	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
〃	久山喜久雄	フィールドソサイエティー代表

理 事	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授・政策学部教授
〃	山中かおり	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監 事	野村 克章	税理士
〃	水口 重忠	元京都市伏見区長

イ 評議員名簿

(敬称略・順不同)

役 職	氏 名	備 考
評 議 員	浅利 美鈴	京都大学地球環境学学准教授
〃	市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議委員長
〃	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	長屋 博久	有限会社村田堂取締役
〃	原 強	京都循環経済研究所所長
〃	桑 善子	有限会社思風都代表取締役会長
〃	周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
〃	田中 克	京都大学名誉教授
〃	安部 孝幸	株式会社京都銀行公務・地域連携部観光地域活性化室長
〃	南山 泰宏	京都教育大学環境教育実践センター教授

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 27 回	2019 年 4 月 1 日	< 書面決議 > 議第 1 号 専務理事選定の件 議第 2 号 理事への使用人職務の委嘱 (重要な職員の任命)	承認 承認
第 28 回	2019 年 4 月 15 日	< 書面決議 > 議第 1 号 3 団体統合に係る諸規則の件	承認
第 29 回	2019 年 5 月 28 日	議第 1 号 2018 年度事業報告書 (案) 議第 2 号 平成 30 年度決算報告書 (案) 議第 3 号 賛助会員要綱 (案) 議第 4 号 寄附金等取扱規程 (案) 議第 5 号 「定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等」 (案)	承認 承認 承認 承認 承認

第30回	2019年 6月21日	<書面決議> 議第1号 理事の利益相反取引に係る承認の件	承認
第31回	2019年 9月5日	<書面決議> 議第1号 理事の利益相反取引に係る承認の件	承認
第32回	2019年 12月10日	議第1号 評議員会の決議の省略について(案) 議第2号 総合戦略検討委員会の設置について(案) 報 告 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について	承認 承認
第33回	2020年 3月27日	<書面決議> 議第1号 事務局設置規則の一部を改正する規則(案)の制定について 議第2号 令和元年度補正予算書(案) 議第3号 令和2年度事業計画書(案) 議第4号 令和2年度予算書(案)	承認 承認 承認 承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第11回	2019年 6月17日	報第1号 2018年度事業報告書(報告) 議第1号 平成30年度決算報告書(案) 議第2号 評議員の選任(案) 報第2号 3団体統合に係る諸規則(報告)	承認 承認
第12回	2020年 2月25日	<書面決議> 議第1号 監事1名選任の件	承認

4 職員数 (2020年3月31日現在)

(単位：人)

理事	専務理事	事務局長	総務課				事業部									合計
			課長	事務職員	臨時職員	小計	部長	課長	課長補佐	事業職員	事務職員	研修職員	再雇用職員	臨時職員	小計	
1	1	(1)	1	3	2	6	1	3 (1)	1	11	1	7	1	4	29	37

※事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち1名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者は()で表示している。

II 2019年度実施事業内容

I 公益目的事業

【1】環境保全活動拠点事業

1 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理業務

- 1111 環境の保全に関する活動のための施設の提供
- 1121 環境の保全に関する資料及び装置の展示
- 1131 環境の保全に関する情報の収集及び提供
- 1141 啓発冊子発行
- 1142 環境副読本発行
- 1143 広報誌の発行
- 1144 ホームページ等による情報発信
- 1145 各種講座や講演会の企画と実施
- 1146 各種団体との連携事業
- 1147 環境ボランティアの育成
- 1148 環境保全活動に関わる人材の育成
- 1149 海外との交流
- 1150 大学生の環境活動支援

2 南部クリーンセンター第二工場環境学習施設管理運営業務

【2】国際事業

- 1201 JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上」業務
- 1202 JICA 草の根事業「イスカンダル・マレーシア地域における低炭素社会づくりに向けた人づくり・地域づくり」プロジェクト
- 1203 JICA 日系研修受け入れ業務
- 1204 JICA中国 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援業務（研修受託業務・専門家派遣）
- 1205 その他国際事業（調査、案件形成等）

【3】地域環境活動支援事業

- 1301 京都市「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援業務
- 1302 京都市「市民協働発電制度地域コミュニティ版コーディネーター派遣業務」
- 1600 ごみ減量推進事業
- 1700 京のアジェンダ21フォーラム事業

【4】講師派遣事業

- 1401 講師派遣・講座の企画実施（セミナー・研修・イベント等）

【5】調査・研究・開発・発信事業

- 1501 これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

II 収益事業

- 5101 施設の使用許可及び公金徴収事務

III その他事業（相互扶助等事業）

- 6101 秘密書類リサイクル事業

事業の方向性ごとの2019年度到達目標

(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会2016～2025年度中長期事業計画)

方向性① 地域社会との連携を深める

これまで関わってきた意欲的な5つの地域コミュニティで「地域拠点を核とした環境に配慮した地域活動」がモデルとして新たに実験されている。

方向性② パートナリシップをこれまで以上に

事業実施だけでない形のパートナーシップが方針に則り実施されている。

方向性③ 人材育成

「育成された人材」が継続的に活躍し、成長していくための仕組みのもとで、人材育成が行われ、他団体にも人材が輩出されている。

方向性④ 京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

協会としての国際事業展開の方針に則り、事業の企画・提案ができる状態が整っている。

方向性⑤ 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

モデルプログラムについて具体化をすすめ、一定大枠ができています。

方向性⑥ 発信力の強化

協会として戦略的に情報発信を行うための方針に則った広報が実施されている。

事業計画と主な実績

※下線部は、2019年度事業計画書の記載内容を転記

I 公益目的事業

低炭素社会・循環型社会推進事業・自然共生社会推進事業

【1】環境保全活動拠点事業（事業番号1111～1150）

1 京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）指定管理業務

京都市環境保全活動センター（以下「京エコロジーセンター」という。）の2019（令和元）年度の年間入館者数は、90,469名でした。開館した2002（平成14）年度から2018（平成30）年度までの過去17年間の年平均の来館者数は85,555名。2019（令和元）年度末までの累積来館者数は、1,544,904名となりました。

2月末までは、2017（平成29）年度・2018（平成30）年度比較で100%を超える来館者数で推移していましたが、2月からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、イベントやボランティア活動の中止や延期、木のおもちゃひろばやかんきょう図書コーナーにおけるDVDコーナーなどの一部のサービス休止、さらには団体見学のキャンセルが相次ぎ、結果として2月・3月の来館者数が激減しました。

春休みには併設する青少年科学センターとの連携キャンペーンや、本年度オープンした南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」との3館連携による取組を進める予定でしたが、多くの人が集うことを呼びかけること自体が自粛される状況から、実施を見送りました。

今後、新型コロナウイルス感染症が収束すれば、青少年科学センターやさすてな京都との連携をさらに強化し、さらなる新規来館者の獲得やリピーターの確保に努めるとともに、現状を踏まえ、事業のあり方やオンラインを利用した業務の進め方等についても、柔軟な対応ができるような体制を整え、不測の事態にも対応できるよう努めます。

京エコロジーセンター指定管理業務について、4年間の指定管理期間の3年目として、事業番号1111～1150の事業を行いました。

1111 環境の保全に関する活動のための施設の提供

京都市の環境教育・学習の中核施設として、身近な生活や京都の特性を活かした環境教育・学習の促進を図ります。団体見学においては、PRチラシを作成し配布するなど、広報を強化します。また、一般来館者には来館者アンケートを継続的に実施し、得られたご意見をもとに事業の改善を図っていきます。

<2019年度結果>

◇入館者数

	来館者数	昨年度比
第1四半期（4～6月）	22,035	109%
第2四半期（7～9月）	29,332	106%

第3四半期（10～12月）	22,684	94%
第4四半期（1～3月）	16,418	76%
第1～4四半期（4～3月）計	90,469	97%

※昨年度比は小数点以下四捨五入

※2019年9月10日に、開館からの累計来館者数が150万人を突破しました。

◇団体見学，エコ学習（京都市立小学校対象）受入数

団体見学	団体数	人数	昨年度比（人数）
第1四半期（4～6月）	31	795	74.4%
第2四半期（7～9月）	37	828	99.5%
第3四半期（10～12月）	48	1,178	56.7%
第4四半期（1～3月）	19	346	36.7%
第1～4四半期（4～3月）計	135	3,147	64.0%

エコ学習	学校数	人数	昨年度比（人数）
第1四半期（4～6月）	34	1,046	81.6%
第2四半期（7～9月）	102	1,380	286.9%
第3四半期（10～12月）	40	494	42.8%
第4四半期（1～3月）	8	237	51.0%
第1～4四半期（4～3月）計	184	3,157	93.3%

- ・ 団体見学が135件3,147名、京都市立小学校を対象にしたエコ学習が184校3,157名、計319件6,304名の受入れを行いました。団体見学では、新型コロナウイルスの影響により、2月頃より事前に予約いただいていた団体からのキャンセルが相次ぎ、また新規の申込みほとんどありませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、キャンセルとなった団体見学は、13団体400名です。
- ・ 団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、有料媒体への広報を2件行いました。全国の小学校・中学校・高等学校、計15校より資料請求があり、パンフレット・チラシを送付しました。その他、昨年度までは旅行会社に絞っていた団体見学チラシを各地のNPO・環境活動団体も対象に前年度の240社から262社へ増やし配布しました。
- ・ 「エコセン通い帳」は、年間で延べ1,080名の参加がありました。通い帳に10回参加した方を表彰する「エコの達人認定証」を38枚発行し、スタンプを60個集めた殿堂入りが3名誕生しました。
- ・ 来館者アンケートは、年間で430件の回答を得ました。

1121 環境の保全に関する資料及び装置の展示

京エコロジーセンターの常設展示内容を最新情報に更新するとともに、老朽箇所を修繕し、より多くの方に展示を通して環境保全に関わる啓発を行います。また、京エコロジーセンター主催の企画展のみならず、他団体との共同主催型企画展等、期間限定の企画展示を年間で複数回開催します。

<2019年度結果>

◇企画展

	開催期間	タイトル（共催団体等）	進捗状況
1	平成31年 1月12日（土）～ 7月12日（金）	「絵本で学ぶ世界の環境展～SDGsの視点で選ぶ絵本の世界～」	終了
2	7月13日（土）～ 12月27日（金）	特別企画展「環境マンガが捉えた環境と暮らし今昔展」	終了
3	7月19日（金）～ 9月3日（火）	共同主催型企画展「夏休み限定！クールチョイス☆チャレンジ～ミッションをクリアしよう！～」 （京都府地球温暖化防止活動推進センター）	終了
4	8月19日（月）～ 8月30日（金）	共同主催型企画展「農業・農村のいろいろな働き～農業・農村の多面的機能の紹介～」 （近畿農政局）	終了
5	10月19日（土）～ 11月4日（月）	共同主催型企画展「第35回京都まちとみどり写真コンクール 展示会」 （京都府都市計画協会）	終了
6	11月12日（火）～ 12月15日（日）	「2020年版 環境カレンダー 原画展」 （日本環境保護国際交流会）	終了
7	令和2年 1月10日（金）～ 3月31日（火）	海でつながる世界の環境展 ～SDGsと海洋環境～	終了

◇企画展関連イベント

開催日	タイトル	講師	参加人数
8月3日	「環境マンガからひもとく社会の変遷」	ハイ・ムーン氏（環境マンガ家）	20
2月29日	「深海魚 ミズウオから学ぼう海の環境問題！」	東海大学海洋学部博物館 業務課 教育・博物担当係長 学芸員 伊藤芳英 氏	中止*

※ 新型コロナウイルスの影響で、中止。

◇木のおもちゃひろば、エントランス貸し出しツールBOX「ちきゅまるのはこ」利用数

木のおもちゃひろば	利用組数	利用者数	昨年度比（人数）
第1四半期（4～6月）	688	1,962	109.8%
第2四半期（7～9月）	944	2,779	101.3%
第3四半期（10～12月）	605	1,684	104.4%
第4四半期（1～3月）※	397	1,171	47.6%
第1～4四半期（4月～3月）計	2,634	7,596	88.3%

※ 新型コロナウイルスの影響で、3月2日（月）より利用を休止中。

ちきゅまるのはこ	利用組数	利用者数	昨年度比（人数）
第1四半期（4～6月）	347	862	158.5%
第2四半期（7～9月）	339	775	108.7%
第3四半期（10～12月）	169	377	124.8%
第4四半期（2020年1～3月）	181	494	107.2%
第1～4四半期（4月～3月）計	1,036	2,508	124.2%

1131 環境の保全に関する情報の収集及び提供

環境に関する資料を幅広く収集し、環境図書コーナーにおいて閲覧に供することで、市民の環境意識の向上を図ります。また、京都市や京都府、国、その他市民活動団体の環境保全に関する情報を随時収集し、環境図書コーナー等において情報を発信します。

<2019年度結果>

- ・ かんきょう図書コーナーを通して、市民に環境について関心を高める機会を提供しました。年間で貸出人数609名、貸出冊数が2,012冊、新規資料の追加が348冊でした。また、12月12日（木）には蔵書点検作業を実施しました。
 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月14日（土）よりDVD視聴ブースの利用を休止しています。

1141 啓発冊子発行

より多くの市民、事業者等に環境保全について理解してもらうため、身近なテーマを取り上げ、絵や写真、グラフ等を用いてわかりやすく説明した啓発冊子を年1回発行し、区役所や図書館等の市内各所に配架します。

<2019年度結果>

- ・ 市民の環境意識を高めることを目的に啓発冊子を作成しました。平成31（令和元）年度は、「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」をテーマに作成した昨年度の内容に「IPCC 京都ガイドライン」および「1.5℃を目指す京都アピール」、京エコロジーセンターの紹介ページを加えた内容としました。これらに加え、地球温暖化の現状および京都市内の気温変化、温暖化が進んだ場合の京都の状況、緩和策、適応策について記載し、3月に6,000部を発行しました。

1142 環境副読本発行

地球温暖化をはじめ幅広く環境問題について学べる環境副読本（小学4年生用、5年生用、中学生用）を作成し、市内すべての小学校および中学校に配付します。必要な更新を行うとともに、学校現場での環境学習ツールとしてより活用案を検討します。

<2019年度結果>

- ・ 令和2年度版環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間や各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されます。また、同副読本は京エコロジーセンターHPからダウンロードが可能で、学習の補助教材として活用できるよう

にしています。

- ・ 京エコロジーセンターと青少年科学センター、さすてな京都との連携強化の一環として、環境副読本の誌面に青少年科学センターとさすてな京都の紹介記事を掲載しました。さらに、さすてな京都で行われている環境学習プログラムの参加者へ環境副読本（中学生版）の配布を行う予定です。

1143 広報誌の発行

読者が家庭でエコな暮らしを意識・実践し、京エコロジーセンターへ来館するきっかけをつくるために、読者ターゲットを意識した広報誌「えこせん」を年間で6回発行します。発行した広報誌は、区役所や図書館、児童館、京都市動物園等、市内各所に配架します。

<2019年度結果>

- ・ 広報誌「えこせん」を年6回、それぞれ5,500部発行し、京エコロジーセンター館内や市内各所に配架しました。広報誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」やメインの読者層である女性を意識した、読みやすい誌面づくりを行い、家庭で取り組めるエコライフの紹介のほか、京エコロジーセンターのイベントや施設を紹介しました。

発行号	発行日	特集1	特集2
No. 61 (6月号)	5月20日	「自信を持って日々を暮らす」 岡本吉広氏(はいのわ店主)	親子で楽しむ七夕
No. 62 (8月号)	7月20日	「心が動けば行動につながる」 キム・ファン氏(絵本・紙芝居作家)	ぬか漬け生活始めませんか?
No. 63 (10月号)	9月20日	「すべての生き物に等しく価値がある」 篠澤俊一郎氏(花園キリスト教会 牧師)	SDGs 達成に向けて
No. 64 (12月号)	11月20日	「一から作ることで見えてくるもの」 大石尚子氏(龍谷大学 准教授)	ものの手放し方
No. 65 (2月号)	1月20日	「私たちの手で食品を救いたい!」 龍 谷大学深尾ゼミナール<かんきょうと>	ローリングストック
No. 66 (4月号)	3月31日	「技術革新が導く持続可能な社会」 伊藤彰浩氏(京都市産業技術研究所)	生き物を探しに出かけよう

1144 ホームページ等による情報発信

リニューアルした京エコロジーセンターのホームページを活用し、京エコロジーセンターの情報を発信するだけでなく、他団体による活動の情報発信を行う等、より効果的に情報を収集するとともに発信を行います。あわせてSNSの活用やプレスリリースの発信、外部の広報媒体を新たに開拓し活用する等、より効果的な情報発信を行います。

<2019年度結果>

- ・ 隔月発行のイベント案内チラシを年6回、それぞれ4,100部配布し、京エコロジーセンター館内や市内各所に配架しました。その他、ホームページやメールマガジン、市民しんぶんやGoGo土曜塾などの外部のイベント情報媒体等を活用して情報発信しました。ホームページには、他団体が主催する環境イベント情報の掲載を申請できるフォームを新たに作成し、他団体を支援する体制を整えました。プレスリリースは2件行い、全館イベントでは京都新聞の取材を受け、記事が掲載されました。
- ・ 隣接する青少年科学センターとの連携で「夏休み 京エコロジーセンターノベルティプレゼントキャンペーン」を実施し、来館促進に努めました。年度末にかけては新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、予定していたプレスリリースや来館促進のキャンペーンを中止しました。

1145 各種講座や講演会の企画と実施

環境問題に関心のない人が関心を持ち、関心のある人が環境に配慮したライフスタイルを実践するきっかけをつくるために、市民が興味を持ちやすく、家庭や学校、職場、地域等での実践につながるような、身近な暮らしや社会に関連した内容のイベントをパートナーシップで企画・実施します。

<2019年度結果>

- ・ 親子向けから環境に関心のある子どもから大人まで、幅広い層に楽しみながら暮らしの中でできるエコや持続可能な社会について学ぶことができる企画を実施しました。

実施件数:40件（うち、大型イベント開催は1件、中止1件）、参加者数：4,357名

開催日	タイトル	講師	参加人数
4月21日	映画「不都合な真実2 放置された地球」		92
5月5・6日	映画「小さな世界はワンダーランド」		271
5月11日	IPCC 第49回総会京都市開催記念シンポジウム 脱炭素社会の実現に向けて～世界の動向と京都の挑戦～におけるパネルディスカッション2「京都の挑戦～プロジェクト“0(ゼロ)”へのみち～」(京エコロジーセンター17周年記念)		400
5月18日	第1回 えこそらキッズ		41
6月1日	第2回 えこそらキッズ		34

6月9日	梅雨前にオリジナル「ミニ雨水タンク」を作ろう！	京都市上下水道局	81
6月22日	第3回えこそらキッズ		41
6月30日	映画「最後の楽園コスタリカ～オサ半島の守り人」上映会		102
7月13日	第4回えこそらキッズ		26
7月21日	映画「オープン・シーズン」上映会		221
7月24日	いきもの探偵団		19
7月29日	ガラス絵づくり～空きびんのリサイクル体験～	宝酒造株式会社	50
8月1日	地球にやさしい食と環境の世界	生活クラブ・京都エルコープ	9
8月1日	みつろうラップをつくろう！	生活クラブ・京都エルコープ	42
8月2日	雲ってなあーに？ 雲を知ってお天気博士になろう	一般社団法人日本気象予報士会関西支部 楽しいお天気講座	83
8月3日	第5回えこそらキッズ		27
8月4日	子どもクッキング教室～自分でつくるカンタンごはん～	京都こどもクッキング 管理栄養士	25
8月9・10日	エコ紙芝居夏まつり！	児童文学作家 キム・ファン氏	140
8月18日	深草の竹で遊ぼう！	リーラボ，京都教育大学竹友会	503
8月19日	京都の木で箸を作ろう！	「京北の木で家を作ろう」ネットワーク	25
8月24日	第6回えこそらキッズ		18
9月7日	第7回えこそらキッズ		23
9月28日	第8回えこそらキッズ		30
9月29日	昆虫食×SDGs 作って食べて考えよう	内山昭一氏	19
10月19日	カカオ豆からチョコレートを作ろう！	Dari K 株式会社	59
10月26日	わくわくハロウィンフェスタ	京都バルーンフルール，アトリエみ塾，渡邊知栄氏	543
11月2日	第9回えこそらキッズ		31

11月16日	SDGs×JICA 海外協力隊 ～世界の環境問題から、私たちのSDGs実践を考える～	増田洋介氏，狭間鮎奈氏，森達朗氏	41
11月16日	第10回えこそらキッズ		16
11月23日	第11回えこそらキッズ		25
11月24日	自家製ポン酢作り&ポン酢料理を作ろう！	川口かな江氏	26
11月30日	+未来フェスタ～プラスチックと私たちの暮らし～		961
12月7日	第12回えこそらキッズ①		13
12月14日	第12回えこそらキッズ②		18
1月11日	第13回えこそらキッズ		34
1月19日	木でつくる離乳食用スプーン教室	谷拓也氏	24
1月25日	第14回えこそらキッズ		38
1月26日	講演会「プラスチック問題～環境にやさしい私たちの暮らしを考える～」	高月紘氏，田中周平氏，堀孝弘氏	82
2月16日	エコセンちびっこ音楽祭	楽団 1mg	75
2月23日	農家さんに学ぼう！おいしいお米のクッキング	かみなか農楽舎	19
3月15日	映画「海 - 消えたプラスチックの謎」上映会		中止

1146 各種団体との連携事業

市民，NPO，事業者等との連携を図り，求めに応じて幅広い環境保全活動を対象とした総合的な支援を行います。他団体とパートナーシップによる事業実施を行うとともに，その実績や成果をまとめます。

<2019年度結果>

- ・ 地域コミュニティや各種団体との連携事業として，学習会の実施やブース出展などを行いました。
- ・ 京都市教育委員会が実施する「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業において，桃陵中学校の生徒3名，藤森中学校の生徒3名の職場体験を受入れました。その他にも，6月に龍谷大学の学生ボランティア体験の受入れや，1月に京安心すまいセンターが実施したイベント「百年の家の秘密 木のやさしさを味わう！木工体験」に，京エコロジーセンターの木に関する展示の活用や，イベント参加者へ展示案内を行う等の協力を行いました。

- ・ なお、エコ学区事業において要請のあった元学区とセンターの環境ボランティアをつなぎ、ブース出展や学習会の実施等を支援したケースが38件（延べ105名のボランティアが活躍）ありました。

1147 環境ボランティアの育成

来館者に対し館内の展示物，環境に配慮した設備を紹介する環境ボランティア（エコメイト）を募集し，養成講座を実施します。また，環境ボランティアのマネジメントを1年間通して行います。

<2019年度結果>

- ・ 事務局全体でボランティアのコーディネートを行うとともに、ボランティア全体の活動意欲を高める場（マネジメントの会）を年間7回実施しました。また、環境問題に関する最新情報を収集し、ボランティア活動へ活かす研修（ボランティア研修）を、年間8回実施し、追加研修としてさすてな京都の見学研修を3回実施しました。
- ・ 新規エコメイトの募集においては、京都市内や周辺地域を中心に幅広く広報を行い、エコメイト養成講座を実施しました。その結果、17名が新規エコメイトとして登録することになりました。

◇マネジメントの会（ボランティア全体の活動意欲を高める場）

開催日	タイトル	対象	参加人数
4月1日	登録証授与式	エコメイト 京エコサポーター	27
4月1日	スタートアップの会	エコメイト	36
4月20日	グループ活動説明会	エコメイト	13
	グループ活動報告会	京エコサポーター	23
7月7日	ボランティア 全体ミーティング①	エコメイト 京エコサポーター	30
9月8日	中間ふりかえりの会	エコメイト	23
12月21日	ボランティア 全体ミーティング②	エコメイト 京エコサポーター	20
3月22日	年間ふりかえりの会	エコメイト	中止
3月22日	修了証授与式	エコメイト（17期生のみ）	14

◇ボランティア研修（環境問題に関する最新情報を収集し、ボランティア活動へ活かす研修）

開催日	タイトル	参加人数
6月8日	ボランティア研修①「エコセンの設備を知ろう」	24
7月10日	ボランティア研修②「社会見学（水）」	39
8月25日	ボランティア研修③「電気に関する情報収集」	29
9月21日	ボランティア研修④「ごみに関する情報収集」	29
10月20日	ボランティア研修⑤「屋上関連（自然）」	20

11月17日	ボランティア研修⑥「SDGs」	34
12月15日	ボランティア研修⑦「くらし」	19
1月19日	ボランティア研修⑧「地球温暖化に関する情報収集」	44

◇京都市南部クリーンセンター見学研修

開催日	タイトル	参加人数
12月10日	京都市南部クリーンセンター見学研修1回目	15
12月16日	京都市南部クリーンセンター見学研修2回目	18
2月16日	京都市南部クリーンセンター見学研修3回目	23

◇ボランティアによる自主企画イベント

開催日	タイトル	実施グループ名	ボランティア スタッフ人数	参加 人数
6月16日	くらしの省エネ祭り	ワーキンググループ 「くらしの省エネ祭 り実行委員会」	40	436
7月25日	エコセン☆夏休みワクワ クひろば～ミニイベント にみんな集まれ～①	登録グループ 「イベントグループ」	4	34
7月28日	うちごみ相談所	ワーキンググループ 「うちごみ相談所」	8	30
8月1日	エコセン☆夏休みワクワ クひろば～ミニイベント にみんな集まれ～②	登録グループ 「イベントグループ」	5	32
8月8日	エコセン☆夏休みワクワ クひろば～ミニイベント にみんな集まれ～③	登録グループ 「イベントグループ」	8	52
8月11日	ペットボトルでマイ風力 発電機をつくろう	登録グループ 「エコエネクラブ」	12	66
8月15日	エコセン☆夏休みワクワ クひろば～ミニイベント にみんな集まれ～④	登録グループ 「イベントグループ」	6	29
8月17日	うちごみ相談所	ワーキンググループ 「うちごみ相談所」	10	31
8月22日	エコセン☆夏休みワクワ クひろば～ミニイベント にみんな集まれ～⑤	登録グループ 「イベントグループ」	6	19
9月22日	エコロジーカフェ ～環境にやさしいおやつ を考える～	登録グループ 「♪エコロジーカフ ェ♪の会」	14	18

12月14日	ペットボトルでマイエコライトを作ろうクリスマスバージョン2019	登録グループ 「エコエネクラブ」	10	15
12月21日	うちごみ相談所	ワーキンググループ 「うちごみ相談所」	6	23
1月26日	ペットボトルの万華鏡で世界をのぞいてみよう	登録グループ 「♪エコロジーカフェ♪の会」	14	20
2月22日	学習会「プラスチックと容器包装」	登録グループ 「イベントグループ」	8	13
2月29日	うちごみ相談所	ワーキンググループ 「うちごみ相談所」	—	中止
2月22日	17期生を送る会	ワーキンググループ 「17期生を送る会実行委員会」	—	中止
3月28日	プラごみ分別ゲーム～プラスチックを減らして地球を守ろう！～	登録グループ 「イベントグループ」	—	中止

◇ボランティアによる自主企画展示

開催期間	タイトル	実施グループ名	ボランティアスタッフ人数
7月22日～ 8月26日	ボランティア推薦図書特別展示絵本&POP展	登録グループ 「図書グループ」	8
10月29日～ 11月18日	ボランティア推薦図書特別展示読書週間POP展	登録グループ 「図書グループ」	8

◇エコメイト養成講座

	開催日	タイトル	参加人数
第1回	1月11日	エコセン・ボランティア きほんのき	15
第2回	1月18日	環境問題・環境学習 きほんのき	16
第3回	1月25日	展示・コミュニケーション きほんのき	14
第4回	2月8日, 9日	環境学習プログラム きほんのき (2日間)	26
第5回	2月15日	実習オリエンテーション	15
	2月17日 ～3月4日	実習期間	17
第6回	3月7日	これまでの講座のふりかえり&登録説明会	中止

1148 環境保全活動に関わる人材の育成

市民を対象に、環境活動を行う地域や市民活動リーダーとして活躍するために必要な専門性を獲得できるような人材育成講座を実施します。また、京エコロジーセンターの環境ボランティア修了生を対象に、地域で環境活動を行う際に必要な専門性を担保するための情報提供を定期的に行います。

<2019年度結果>

- ・ 年間を通じてエコメイト修了生を対象に、地域の活動に役立てられるような情報、エコ学区事業のブース出展や学習会についてのスケジュール等の情報提供を行いました。
- ・ 連続講座として、自然エネルギーに関心がある方や自然エネルギーで地域づくりを行いたい方等を対象に「自然エネルギー学校・京都 2019」を6～9月の期間で実施しました。
- ・ 環境保全活動を推進するために、地域等で活躍できる人材を発掘・養成することを目的とした「環境活動パワーアップ講座 2019」を10～12月の期間で実施しました。

◇自然エネルギー学校・京都 2019「～自然エネルギー100%実現の方法を探る～」

開催日	タイトル	参加人数
6月15日	～自然エネルギー100%実現の方法を探る～ 第1回「自然エネルギー100%最新動向」	23
7月13日	～自然エネルギー100%実現の方法を探る～ 第2回「世界の主流風力発電，なぜ日本で普及しないのか」	23
7月27日	～自然エネルギー100%実現の方法を探る～ 第3回「地域小水力発電のはじめ方」	21
8月24日	～自然エネルギー100%実現の方法を探る～ 第4回「木質バイオマスエネルギー利用の現場から」	19
9月14日	～自然エネルギー100%実現の方法を探る～ 第5回「太陽光発電，いまどうなっているの？」	21

◇環境活動パワーアップ講座 2019

開催日	タイトル	参加人数
11月2日	第1回 「私（達）は、何を実現したいのか じっくり考え伝えてみよう」	9
11月3日	第2回 「仲間と一緒に思いをカタチにする力をつけよう」	7
11月6日	第3回 「私（達）はどんな力があるのか 様々なつながりを考えてネットワークを広げよう」	7
11月24日	第4回 「私（達）は、何を實現したいのか じっくり考え伝えてみよう」	4
12月14日	第5回 「私（達）はこれから何をするのか 考え，伝え，多	8
12月15日	くの人にも呼びかけよう」	7

1149 海外との交流

環境先進都市として国内外の他都市との連携を図り、国際的な取組の推進に努めます。そのために、国際的な環境の取組に関する意識・関心を高めるための企画展およびイベントを企画・実施し、国内外の様々な人が集うきっかけをつくります。また、海外での環境活動や環境教育に関する事例や情報を収集・整理し、図書コーナー等を活用して発信し、海外の方にも活用できるようにします。

<2019年度結果>

- ・ 引き続きかんきょう図書コーナーにおいて、日本語を母語としない来館者にも図書コーナーでの時間を充実したものとすることを目的に、地球温暖化や環境教育等の資料を提供しました。今後も、必要に応じて資料を充実させていく予定です。
- ・ 今年度の海外からの団体見学対応は、20 団体 247 人（第1 四半期：5 団体 75 人，第2 四半期：6 団体 70 人，第3 四半期：6 団体 85 人，第4 四半期：3 団体 17 人）で、45ヶ国からの方々を受け入れました。

1150 大学生の環境活動支援

大学生の環境活動を支援する各種団体とのネットワークを構築し、大学生が定期的に活動を始められる仕組みを試行します。(1502 ESD-SDGs 事業との連動を予定。)

<2019年度結果>

- ・ 京エコロジーセンターを、大学生の環境活動の拠点施設として機能させるために、京エコロジーセンターのHP上で、「大学生の環境活動支援」ページを作成しました。その結果、大学生1名よりインターンシップの希望があり、2回の面談を経て、次年度の受入れに向けて調整を行いました。
- ・ 9月6日（金）に立命館大学 Sustainable Week 実行委員会と岩手大学環境マネジメント学生委員会の8名が意見交換と交流を兼ねた学習会を行う際に支援（会場の提供及び館内案内並びに意見交換会におけるファシリテーション）を行いました。

2 南部クリーンセンター第二工場環境学習施設管理運営業務

2199 南部クリーンセンター第二工場環境学習施設管理運営業務

南部クリーンセンター第二工場に設置される、世界最先端の環境技術等が楽しく学べる環境学習拠点が2019年度にオープン予定であり、運営者として選定された場合は、子どもから大人まで幅広い年代に対し、施設見学や学習プログラムなどを実施します。

<2019年度結果>

- ・ 公募により、株式会社トータルメディア開発研究所、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会、株式会社かんでんジョイナスの3社によるコンソーシアムが、運営者として選定されました。
- ・ 協会から学習プログラム担当の職員を1名派遣し、9月8日に第二工場竣工式及び「さすてな京都」の内覧会、10月5日開催に「さすてな京都」オープニングイベントを行いま

した。

- ・ オープンから3月末時点までに、10,424名の方々にご来場いただきました。
(新型コロナウイルスの影響により失われた来館者は、約1,000名。)
- ・ 運営グループから京都市への提案と協議を繰り返した結果、「ごみ減量」は元より、「循環型社会の形成」「低炭素社会の実現」「自然との共生」という3つの柱を用意し、「地球温暖化対策」「生物多様性」「環境面から見た横大路地域の歴史」等の幅広い分野を対象とした環境学習プログラムを準備することとなりました。どの要素にも、「ごみ減量」につながる気づきや学びを用意しています。

	来場者数	特記事項
10月	2,877	5日開館日。オープニングイベント来場者は1,200人
11月	2,967	29日より年末休館
12月	983	4日より通常開館
1月	1,194	
2月	1,608	
3月	795	新型コロナウイルスの影響により5日以降館内プログラム中止
合計	10,424	
平均	70.0	
	61.9	※10月5日イベント除外した平均

- ・ 新型コロナウイルスの影響で先行きの見えない状況ですが、今後予定している小学4年生の社会見学受入等を着実にを行い、安定運用を目指します。また、青少年科学センター、京エコロジーセンター、さすてな京都による伏見区3施設連携については、当協会が異なる京都市所管部署間の横串の役割を担うことで、相乗効果を産み出せるよう、環境保全活動の中間支援組織としての役割を果たしていきます。

【2】国際事業 (事業番号1201～1205)

1201 JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上」業務

廃棄物管理に関わる行政職員を主な対象とした本研修では、廃棄物管理や政策に関わる講義や視察を行うだけでなく、市民参画による廃棄物減量や分別への協力をどのように得るのかという視点で2ヵ月にわたる訪日研修を企画・実施します。また、本研修で学んだことを活かし、参加した研修員がそれぞれの立場で実現可能なアクションプランを作成することを支援し、その実行にかかるフォローアップを行ないます。

<2019年度結果>

- ・ 8月29日から10月19日までの約2か月にわたり、アンゴラ1名、ブラジル3名、モザンビーク3名、サントメ・プリンシペ1名の合計8名の廃棄物管理計画や実施に関わる行政等の職員を受入れました。
- ・ 訪日研修に先立ち、8月14日～8月25日の期間でブラジル国ブラジリア連邦直轄区及びサンパウロ市における在外補完研修を行ない、都市の規模や発展段階に応じた廃棄

物管理について学んだ上で、訪日研修では、京都市の廃棄物管理に係る取組事例や施設の視察を始め、市民参画や協働による廃棄物減量・管理などの日本の事例に学ぶ研修を実施しました。研修のアウトプットとして、学んだことを自国で活かすための研修員それぞれのアクションプランを作成・発表しました。

- ・ 研修員の帰国後も、連絡を取り合い、取組の進捗を確認するとともに、必要に応じた情報提供や教材提供等のフォローアップを行ないました。

1202 J I C A 草の根事業「イスカンダル・マレーシア地域における低炭素社会づくりに向けた人づくり・地域づくり」プロジェクト

本プロジェクトは2016年2月から2018年12月の約3カ年で実施し、終了しました。2019年度は本プロジェクトをさらに発展させた第2フェーズの実施に向け、関係者との調整及び協議を行います。

<2019年度結果>

- ・ 本プロジェクトの第2フェーズとなる「低炭素社会実現に向けた人材育成とネットワーク拠点づくりプロジェクト」の提案書を平成30年度補正／平成31年度予算 JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）の募集にあわせ、6月に提出しました。案件提案の結果、10月2日付で採択を受けました。
- ・ 第2フェーズのプロジェクト実施に向け、現地ステークホルダーとのプロジェクト実施にかかる合意文書（ミニッツ）の締結のための調整や JICA 関西及び JICA マレーシア事務所との調整を行いました。プロジェクト開始は2020年度中の予定です。

1203 J I C A 日系研修受け入れ業務

中南米の日系研修員を対象とした約1ヵ月間の J I C A 日系研修「環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）」コースを企画・実施します。O J T 形式で協会の業務を行うことを通じ、環境教育プログラムの企画と実践方法や市民参画での環境教育・環境保全活動の推進のための視点を学び、帰国後それぞれの立場で活躍できる環境教育リーダーの育成を図ります。研修実施後は、その成果を整理し、発信します。（参加者からの応募があった場合のみ実施されることとなります。）

<2019年度結果>

- ・ 11月8日～12月2日の期間で1名の日系ブラジル人研修員を受入れました。京エコロジーセンターでの業務を通じて環境教育のノウハウを学び、研修員が企画したマイクロ・プラスチックをテーマとした環境教育プログラムを、京エコロジーセンターの全館イベント時に多くの来館者に対して実施しました。また、来年度の日系研修については JICA へ研修内容の提案を行い、採択を受けました。（実施は来年度参加者募集を行い、応募者及び合格者がいた場合のみとなります。）

1204 J I C A 中国 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援業務（研修受託業務・専門家派遣）

中国で実施されている本プロジェクトにおいて、先方の要望に応じ、情報・意見交換や、研修の受入や短期専門家派遣を行います。これらを通じて、中国での環境学習施設の運営や環境教育の推進をはかるための取組及び仕組づくりに、継続して協力を行います。

<2019年度結果>

- ・ 中国・北京にある日中友好環境保全センター及びプロジェクト関係者との情報交換等を継続して実施しています。同センターの研究員が12月に関西を訪問した際には、視察先のコーディネーターを行うとともに、京エコロジーセンターでの意見交換を行いました。

1205 その他 国際事業（調査、案件形成等）

環境教育、環境学習施設運営、市民参画を通じた国際協力の研修・事業についてのリサーチを随時行い、新たな案件形成につなげます。

<2019年度結果>

- ・ 韓国・自然の友研究所と日本国・京都市環境保全活動推進協会の両団体による環境教育・学習、ESD等推進に関する相互協力に係るMoU（覚書）締結式を行いました。また、締結式後に韓国・自然の友研究所所長による講演会「韓国環境問題と環境教育の流れ」を企画・実施しました。
- ・ インドネシア国アチェ州政府青少年局がNPO法人地球対話ラボ等と協働し実施している津波被災地間の交流プログラムの一部として、京都市における3日間の廃棄物管理等に関する研修（Waste Academy）の依頼を受け、11月8日～10日の3日間のプログラムを企画・実施しました。26名を受入れ、講義や見学、ワークショップなどを行いました。

【3】地域環境活動支援事業

1301 「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援業務

京都市内で地域活動の中心的な役割を担っている「学区」に対して、地域性を活かした学区独自のエコ活動、地球温暖化の現状と対策をはじめとする環境保全に関する知識を提供する学習会、省エネ体験会の開催等、地域の意欲に応じた支援業務を実施することで、地域ぐるみのエコ活動を推進します。（市内全222学区対象）

<2019年度結果>

- ・ 京エコロジーセンターに「エコ学区サポートセンター」を開設し（平日9時～17時）、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した222学区に対し、学習会などの実施等を通じて、地域ぐるみのエコ活動を促進しました。
- ・ 年間で計1,566回（前年度比110%）、学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域へ直接アプローチを行うなど、ニーズに合わせ迅速に対応しました。

<p>京エコライフプログラム(4学区)</p> <p>①高齢者のためのエコな防災拠点をつくるプロジェクト (北区鷹峯学区)</p> <p>②子どもが考える防災×エコ (左京区上高野学区)</p> <p>③守りたい市原野エコマップ製作 (左京区市原野学区)</p> <p>④地域の「自然と防災×エコ」拠点作り (中京区朱雀第三学区)</p>	<p>学区が小学校と連携して行う、地域性をいかしたエコ活動を通じて学区のエコ活動が小学生などの家庭やPTAに広がるように努めました。</p>
<p>エコ学区ステップアッププログラム(5学区)</p> <p>①快適でエコな居場所づくり (上京区乾隆学区)</p> <p>②自治会館×エコ (右京区御室学区)</p> <p>③地球温暖化による災害を減らそう！向島藤ノ木節電所 (伏見区向島藤ノ木学区)</p> <p>④地球温暖化による災害を減らそう！西野「節電所」 (山科区西野学区)</p> <p>⑤食ロス×エコ in 安朱～子どもから地域へ (山科区安朱学区)</p>	<p>地域拠点のエコ化や、エコ×防災など、地域課題に絡めたエコ活動を行いました。</p>
<p>学習会 (25 学区実施)</p> <p>啓発ブース出展 (40 学区実施)</p>	<p>様々なテーマで実施し、6,049名(大人 2,315名・子ども 3,734名)が参加しました。</p>
<p>エコ学区担い手セミナー</p> <p>①2月10日 14:00～15:30 (参加者数:大人16名)</p> <p>②2月25日 14:00～15:30 (参加者数:大人10名)</p> <p>③3月13日 新型コロナウイルスのため資料配布で対応 (資料配布人数:大人26名)</p>	<p>地域のエコ活動の担い手を育成することを目的に実施しました。</p>

1302 市民協働発電制度地域コミュニティ版再生可能エネルギー導入支援業務

京都市では、地域のコミュニティ組織が主体となった再生可能エネルギー利用設備の普及拡大を図ることを目指しており、地域住民の合意形成のほか、当該地域における再生可能エネルギーによる発電事業に関する調査や事業化を検討するコーディネーターや専門家の派遣業務を行います。

<2019年度結果>

- ・ 5地域(左京区上高野自治会・下京区豊園エコ推進員会・左京区錦林東山学区白川児童館・左京区市原野学区自治連合会・中京区朱雀第三学区自治連合会)で支援を行いました。

1600 ごみ減量推進事業

市民、市民団体、事業者、事業者団体、ごみ問題の専門家、京都市などが対等の立場で参画し、お互いの立場を理解しながら、自発性とパートナーシップを基本として、ごみ減量に関する意識の高揚化を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組を促進することにより、京都市のごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしの実現に寄与するために、以下の事業を実施します。

ア 普及啓発

- ・パンフレット，ホームページ等の活用し，効果的な広報を行います。
- ・ごみ減量につながるライフスタイル転換のヒントや各団体の活動報告等を掲載した広報誌「ごみ日和」を発行します。
- ・全市的イベント等において啓発ブース（パネル展示，アンケート，クイズ，工作教室等）の出展します。
- ・市民向け，親子・子ども向け，企業向けのごみ減量講座やワークショップ等を行います。

<2019年度結果>

- ・ ウェブサイトの閲覧数は年々増加し，主として，岡崎フリーマーケットページのアクセス数が多くなっています。(9,073pv/月) ※前年比 121%増
- ・ 「京の暮らし足るを知る」をテーマに，広報誌「ごみ日和」を年4回（各 3,000 部）発行しました。今年度から嵯峨美術大学の学生の協力により，親しみやすい表紙を採用するとともに，QRコードでウェブサイトへの誘導を図っています。
- ・ ごみ減量推進友の会との協働で，全市イベントでのごみ減量啓発ブースに8回出展しました。(約 2,300 名参加) 新型コロナウイルス感染拡大により予定していた2回を中止しました。
- ・ 事業者・市民両委員からの提案による企画，対象別の講座を実施しました。
企業向け（5回），子ども向け（3回），親子向け（1回），市民向け（2回）
- ・ （一社）持続可能環境センターの「3R・低炭素社会検定」事業への協力，ごみ減会員への検定料等補助を行いました。

イ ごみ減量事業化

- ・市立小中学校児童生徒が回収した学校給食用牛乳パックを，トイレットペーパー「めぐレット」にリサイクルします。
- ・家庭に眠っている不用品の再使用（リユース）を目的として，「いらなくなったらいる人へ」をテーマにフリーマーケットを開催します。
- ・ごみ減量・リサイクルに関する取組など，循環型社会の実現に資する事業に対して助成を行います。(先進的モデル事業：上限 1,000 千円，地域活動事業：上限 500 千円)

<2019年度結果>

- ・ 市内小中学校の児童・生徒が飲用した学校給食の学乳パックを，トイレットペーパーにリサイクルする事業を実施し，市関連施設での利用や当事業の啓発物品として活用しています。
- ・ フリーマーケットを岡崎公園で 10 回開催（新型コロナウイルス感染拡大により2回中止）し，出店数は増加傾向にあります。また，環境の取組のPRの場として，他団体や他事業との連携を進めています。
- ・ 循環型社会の実現に資する事業に対し，先進的なモデル事業（上限 100 万円）と地域活動事業（上限 50 万）の助成を行いました。9 団体の応募があり，審査の結果 9 団体を採択しました。3月6日に予定していた成果報告会は，新型コロナウイルス感染拡大により中止しました。

- ・ 事業所から排出される、機密保持を要する書類（秘密書類）を段ボール梱包の状態でリサイクル工場へ搬出しました。（月平均9トン 前年度比120.4%）

ウ 地域活動

- ・ 小学校区（元学区を含む）を基本単位として、地域住民により組織される地域ごみ減量推進会議の活動を支援します。
- ・ フリーマーケットへの出店支援
- ・ 意見交換会の開催（各区代表者会議）
地域ごみ減量推進会議の行政区・支所単位での活動を支援します。
- ・ 行政区ミーティングの開催支援
- ・ 地域ごみ減量推進会議及び京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会会員の意識向上を目的に、環境関連施設等への見学会を実施します。

<2019年度結果>

- ・ 各区代表者会議（意見交換会）を8月23日（金）に実施しました。
- ・ 行政区単位でのエコイベント開催や学区単位での資源物回収、フリーマーケットの出店支援や環境啓発のための勉強会（プラスチックごみ等）を実施するなど、地域での課題に合わせて活動を進めています。

エ 2R型エコタウン構築事業

- ・ 2R型ライフスタイルを広めるための人づくり事業を実施します。
- ・ 2Rの考え方や施策、モデルとなる行動様式等を発信します。
- ・ 主に日用品等の修理等を行う店舗を紹介し、その利用及び家庭ごみの減量を図ります。

<2019年度結果>

- ・ 社会人向け教育事業の調査や関係する個人・団体の要望調査などに取り組み、実施構想をもとに試行的な講座等を実施しました。
- ・ 2Rの考え方や行動様式の発信、施策やサービスの紹介を行いました。具体的には「リーフ茶の普及でペットボトルを減らそうキャンペーン」、「海ごみ・脱プラ学習会」「2R茶会」、「リーフ茶大学講座」等の他、ウェブサイトで情報発信（今年度平均10,855pv/月、前年度5,022pv/月）するとともに「脱プラ・減プラ」ステッカーを作成し配布しています。
- ・ 京のお直し屋さんとリユースショップ情報サイト「もっぺん」の掲載店は208店舗。ウェブサイトアクセス数は11,368pv/月平均（前年度6,000pv/月）と増加し、さらに広く周知するため、岡崎フリーマーケットに「もっぺん出張所」の出店や紙媒体での「もっぺんマップ」の作成などを展開しました。（現在、7行政区が完成）

1700 京のアジェンダ21フォーラム事業

市民、事業者、行政が協働して、京のアジェンダ21に示された取組の具体化及び行動への誘導、並びにその評価及び充実を図り、もって環境と共生する持続型社会を実現するために、以下の事業を実施します。

ア 京都におけるSDGsに関する取組の推進

- ・ 京都における持続可能な社会づくりを進めるため、国連で採択されたSDGsに関する情報提供を行うとともに、多様な主体が取組を推進できるような仕組みづくりについて調査研究を行い、各方面へ提案します。

<2019年度結果>

- ・ 12月21日に開催された京都市市民活動総合センター主催の「市縁堂2019」に参加出展し、参加者や他の出展団体（参加者100名強、出展団体11団体）に対し、当協会が実施する環境保全に資する活動の紹介を行い、SDGsに供する取組の周知・普及を行うことができました。
- ・ 2月29日に参加型セミナーを企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

イ 再生可能エネルギーの普及拡大・省エネルギーの推進

- ・ 再生可能エネルギーの普及について、再生可能エネルギーワーキンググループ会議を定期的に開催し、情報交換および有効な取組の立案を行う場とします。
- ・ 地域の公共的な建物への再生可能エネルギー導入や電力小売全面自由化を活用した再生可能エネルギーを拡大するため取組、すまいのエコ化など、再生可能エネルギーの拡大や省エネルギーの推進に向けた取組を行います。

<2019年度結果>

- ・ 再生可能エネルギーワーキンググループ会議を開催し、京都市との連携や買取期間終了に際しての情報提供、京エコロジーセンターの再エネ100%などについて検討を行いました。
- ・ 5月20日に「再生可能エネルギー100%セミナー」を開催し、RE100実施企業の取組や自然エネルギー100%宣言企業・団体の取組について情報共有した上で、企業等の再エネ100%に向けた課題と展望についてディスカッションを行いました。
- ・ 10月20日と11月16日に開催された京都エネルギーフェアにブース出展し、共同住宅等で設備導入が難しい方へ向けた、再エネ電力購入プランの紹介を行いました。また、10月31日に開催された京都市主催の「再生可能エネルギー講習会」において、その内容と講師の提案および調整を行いました。

ウ 企業等による環境活動促進・支援

- ・ 京都市内の各地域における事業者、学校、住民が「環境保全活動」をキーワードに、協力し合いながら取り組む仕組みづくりを目指した活動を充実させるための支援を行います。
- ・ 事業者等を対象に、CSR活動を進めるためのセミナー等を開催します。
- ・ 企業等の事業所に呼びかけて、京都の文化にゆかりのある希少になりつつある植物の育成や、生物多様性に配慮した敷地内緑化、地域の生物多様性保全活動へ参加などの取組を広げる活動を関係団体等と協力して行います。

- ・ その際、希少種の育成と地域の生物多様性保全活動との連携やグリーンインフラとしての雨庭の普及などを進めます。

<2019年度結果>

- ・ 複数の企業等がチームを作って環境保全活動を行う「京都環境コミュニティ活動 (KESC)」では、環境エネルギーチームがイベント出展と藤ノ森小学校での出前授業、環境かみしばい学習チーム2つの幼稚園とイベントで新作のかみしばいを上演、里山保全チームが明德小学校の学校林「わきの山」における里山保全活動として、チマキザサの保全作業や防鹿ネットの設置などを行いました。
- ・ 事業者向けのCSRセミナーを3月17日に企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。
- ・ 企業等による生物多様性活動として「KESエコロジカルネットワーク」の事務局を担っており、現在254事業所が参加しました。今年度も関係団体等と協力して、説明会や育成講習会などを行ったほか、上賀茂神社へのフタバアオイの奉納、梅小路公園での「藤袴と和の花展」への出展などの連絡調整や様々な情報提供を行いました。

エ 観光のエコ化の推進

- ・ 祇園祭ごみゼロ大作戦へ参画し、リユース食器の利用を露店以外に地域の出店へも広げるなど、観光のエコ化に向けた取組を行います。

<2019年度結果>

- ・ 「プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存」として地球環境基金の助成を受け、7月の祇園祭での給水スポットの設置、地域店舗へのリユース食器導入試行、ごみの現地調査などを行いました。
- ・ その結果をもとに9月以降、地域住民や関係者による学習会を開催し、2月8日にシンポジウム「観光地の持続可能性、これからの展望」を開催しました。

オ 気候変動についての最新情報発信

- ・ 地球環境問題に対する京都市民の意識醸成と盛上げのための公開行事を行います。

<2019年度結果>

- ・ 5月のIPCC第49回総会に合わせて開催された京都市主催のシンポジウムで、新川委員長がパネルディスカッションのファシリテーターを務めたほか、「Global Landscapes Forum Kyoto 2019」にブース出展しました。
- ・ 1月5日には、「ゲームで体験！SDGs×まちづくり」を開催し、ミニレクチャーとカードゲーム「SDGs de 地方創生」の体験会を行いました。

カ 環境情報等の発信と共有

- ・ 会員をはじめ、市民、事業者などに対して、世界の動きや「京のアジェンダ21」の推進について広く情報発信を行うため、季刊誌を発行する他、ホームページ等の運営、SNSの活用、メールマガジンの配信などを行います。

<2019年度結果>

- ・ 9月と3月に情報誌「あじえんだ」を発行したほか、毎月初めにメールマガジン「京えこめる」の配信やホームページ、Facebook、Twitterでの情報発信を随時行いました。

キ 交流・共催事業の実施

- ・ 市民、事業者、行政等の参加と協働を促進するため、京のアジェンダ21の推進につながるような市民団体・事業者等との交流事業、共催事業を企画・実施するとともに、他団体の主催事業にも必要に応じて参画します。

<2019年度結果>

- ・ 5月に家庭の省エネ相談所協議会を開催したほか、京都カーフリーデー実行委員会への参画、京都雨庭研究会への参加などを行いました。

【4】講師派遣事業（事業番号1401）

1401 講師派遣・講座の企画実施（セミナー・研修・イベント等）

外部でのセミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境教育、環境学習施設運営やボランティアコーディネーション等をテーマとした講演や事例発表を行います。

また、依頼元の要望にあわせた出前講座、セミナーやワークショップの企画実施を通して、他団体による環境活動の支援を行います。

<2019年度結果>

- ・ セミナーやシンポジウムに職員を派遣し、環境学習施設運営や市民参画・ボランティアコーディネーションについての講演や事例発表を行いました。
- ・ 依頼元の要望にあわせた出前講座やワークショップの企画実施などを通して、他団体による環境活動を支援しています。

実施日	事業名	主催
6月11日	京都市立嵯峨野小学校におけるごみ減量に係る授業の実施	京都市立嵯峨野小学校
6月21日	2019年度 JICA 課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進（C）」にかかる講師派遣	一般財団法人省エネルギーセンター
6月24日	生活協同組合コープこうべ 自主くらぶ「お袋さん」への講師派遣	生活協同組合コープこうべ
7月26日	京都生協北ブロック ほっこりクラブ主催 ほっこりクラブ夏休み親子エコ工作教室への講師派遣	京都生協北ブロックほっこりクラブ
8月3日	（社福）大阪ボランティア協会主催「第45期ボランティアコーディネーター養成講座 新任ボランティアコーディネーター基礎研修」にかかる講師派遣	大阪ボランティア協会
9月7日 9月8日	「ボランティアコーディネーション力検定」直前研修（大阪会場）にかかる講師派遣	日本ボランティアコーディネーター協会

9月17日	2019年度 JICA 草の根パートナー型「ブータン王国ティンプー市における廃棄物適正管理に関する技術移転事業」にかかる講師派遣	一般財団法人日本環境衛生センター
10月5日 10月6日	「ボランティアコーディネーション力検定」直前研修（福岡会場）にかかる講師派遣	日本ボランティアコーディネーター協会
10月24日	2019年度 JICA 課題別研修「博物館とコミュニティ開発」にかかる講師派遣	国立民族学博物館
2月12日	2019年度 JICA 課題別研修「総合的な廃棄物管理（全般）（B）」にかかる講師派遣	中部リサイクル運動市民の会

【5】調査・研究・開発・発信事業（事業番号1501～1502）

1501 これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

協会がこれまで蓄積してきた、施設経営・環境教育・ボランティア教育・NPOや地域活動支援のノウハウ、それらに関するコンサルティングや資源の提供をソーシャル・ビジネスとして展開するための調査・研究・開発・発信を行い、協会の将来展望をひらきます。

<2019年度結果>

- ・ 学会等における協会の取組の発信を行うと共に、これまでの経験・ノウハウを活かし、その取組をさらに高め、発信するための研究会や委員会等への参画を行っています。

【学会等での協会事業の発信実績】

実施日	事業名	主催
5月11日	"IPCC 第49回総会京都市開催記念シンポジウム 脱炭素社会の実現に向けて～世界の動向と京都の挑戦～"	京都市
5月13日	「Global Landscapes Forum Kyoto 2019」へのパネル出展	国際林業研究センター
8月23日	豊中市「協働の取組に関する意見交換会」への出席	豊中市
11月 15～17日	清里ミーティング2019でのポスターセッション参加	公益社団法人日本環境教育フォーラム
2月1日 2月2日	「第27回ワン・ワールド・フェスティバル」出展	ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
2月 14～15日	持続可能な社会・なりわい・暮らし ささやまミーティングでの活動内容発表	エコネット近畿

【研究会・実行委員会等への参画実績】

実施日	事業名	主催
通年	ボランティアコーディネーション力検定試験委員会への参画	特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

通年	日本環境教育学会「学校環境教育研究会」への参画	日本環境教育学会
5月～	第24回「青少年のための科学の祭典」京都大会 実行委員会への参画	「青少年のための科学の祭典」京都大会実行委員会

【プロモーション・ファンドレイジング】

2018年度に外部専門家を交えながら、協会の組織基盤強化へ向けた現状と課題を分析し、策定した計画を基に、2019年度は会員・寄付を募集するための広報ツールの作成及び寄付キャンペーンの実施、協会のホームページの内容の充実化を行います。また、この取組を進めるにあたっての各課をまたいだチームを設立し、定期的に外部専門家の助言を得ながら計画を進める体制を整えます。

<2019年度結果>

- ・ 協会の組織基盤を固め、持続可能な運営体制を築くため、外部の専門家を交えた戦略会議を行いました。2019年度は、前年度までの協会の現状と課題の分析及び整理を踏まえ、会員・寄付受付制度の整備及び募集の際のコミュニケーションの方法・体制などについて具体的に検討する「ファンドレイジング・コミュニケーションタスクチーム（各課より1名以上がメンバーとして参加）」、職員の人材育成やそれに伴う人事評価等について具体的に検討する「人材育成タスクチーム（各課の管理職がメンバーとして参加）」を設置し、引き続き外部専門家の客観的な視点でのアドバイスを受けながら、協会の組織基盤強化につながる制度、体制等について協議を進めました。

1502 ESD-SDGs事業

2018年度ESDユース・ネットワーク作業部会の協議を基に、SDGsやESDに興味関心のあるユース(大学生)に、実践的な学習プログラムを提供するとともに、組織を越えて繋がり、活動内容を進化させることができるネットワークを構築します。

<2019年度結果>

- ・ 文部科学省「平成31年度ユネスコ活動費補助金 SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」に採択され、関係者らとともに「京都・関西SDGsネットワークみやこKAMADOKIプログラム実行委員会」を設置し、主に大学生・大学院生を対象にしたプログラムを実施しました。

開催日	事業名	会場	参加人数
7月13日	キックオフイベント「京都・関西から学生がSDGsに取り組む」	キャンパスプラザ京都	40
8月17日	「SDGsシンカゼミ」第1回	下京いきいき市民活動センター	16
8月18日	「SDGsスタジオ」事前講義	京エコロジーセンター	5
8月24日	「SDGsシンカゼミ」第2回	下京いきいき市民活動センター	14

8月25日	「SDGs アクト」オリエンテーション	京エコロジーセンター	13
9月7日	「SDGs シンカゼミ」第3回	下京いきいき市民活動センター	12
9月8日	「SDGs スタジオ」中間講義	京エコロジーセンター	6
9月22日	成果報告会	京都経済センター	33
2月7日	ステークホルダー交流会	京都市国際交流会館	26

II 収益事業

5101 施設の使用許可及び公金徴収事務

京エコロジーセンターでは、会議室等の貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室2、視聴覚室(シアター)、リサイクル工房(実習室A)、エコ厨房(実習室B)が各1となっています。京エコロジーセンターの認知度を上げるための効果的な広報等に取り組み、来館者数、利用率の向上を図ります。

<2019年度結果>

利用実績は昨年度に比べて大きく増加していますが、2月下旬からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止を理由とする利用の取りやめが始まり、3月は昨年度同月比で4割程度と利用が大幅に少なくなりました。

利用回数	利用者数	使用料金合計
487回 (422回)	5,998人 (4,880人)	1,435,100円 (1,101,050円)

※使用料金は全額京都市の収入となります。

※3月末までの開館日数は、285日です。()は昨年度の実績

Ⅲ その他事業（相互扶助等事業）

6101 秘密書類リサイクル事業

個人情報や機密情報を含む書類は紙としてはリサイクル可能なものですが、通常古紙回収等では情報漏えい等の可能性があるため、焼却により処分される場合が散見されます。

本事業は紙のリサイクルを一層推し進めるため、個人情報や機密情報が外部に漏れないよう保持したまま、溶解処理により段ボール板紙に再生するものです。

この事業は会員へのサービスとして実施し、収集運搬は専ら物として古紙を扱う事業者組合へ入札により委託します。

<2019年度結果>

◇回収実績（単位：上段kg・下段円 50銭/kg）

	京都市	民間	合計		京都市	民間	合計
4月	75,790	29,740	105,530	10月	74,180	18,660	92,840
	37,895	14,870	52,765		37,090	9,330	46,420
5月	63,070	13,790	76,860	11月	63,090	11,480	74,570
	31,535	6,895	38,430		31,545	5,740	37,285
6月	94,360	23,110	117,470	12月	53,100	27,490	80,590
	47,180	11,555	58,735		26,550	13,745	40,295
7月	109,000	15,030	124,030	1月	40,080	20,680	60,760
	54,500	7,515	62,015		20,040	10,340	30,380
8月	67,530	16,000	83,530	2月	56,070	8,200	64,270
	33,765	8,000	41,765		28,035	4,100	32,135
9月	83,730	17,280	101,010	3月	90,300	4,160	94,460
	41,865	8,640	50,505		45,150	2,080	47,230
延べ利用 部課数	168 (164)	115 (103)	283 (267)	合計	870,300	205,620	1,075,920
					435,150	102,810	537,960

※前年比 116.45%（前年合計 923,970 kg），延べ利用部課数の（ ）内は前年度の数

Ⅲ 附属明細書

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020 年 5 月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第 34 条 事業報告

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。